

【本大会の弁論課題について】

Japanese text author: Tomohiro Kakiuchi /

English translation: Generative AI (OpenAI ChatGPT) & Tomohiro Kakiuchi

This manuscript was produced with partial assistance from generative AI (OpenAI ChatGPT).

日本語原稿執筆：垣内智裕 / 英語翻訳：生成 AI (OpenAI ChatGPT)・垣内智裕

※本原稿は生成 AI (OpenAI ChatGPT) の部分的な支援を受けて制作しました。

2026 年度／第 51 回 幼児 課題

① The Little Bird in My Garden わたしの庭の小さな小鳥

English : 26 words

One cold morning, I saw a small bird in my garden.

It looked hungry and scared.

I gave it some seeds and said,

“Don’t be afraid.”

日本語訳

ある寒い朝、わたしは庭で小さな小鳥を見つけました。

小鳥はおなかをすかせていて、こわがっているようでした。

わたしはその小鳥に少し種をあげて、言いました。

「こわがらなくていいよ」

② A Windy Day in the Park 風のふく公園

English : 43 words

The next day, I went to the park wearing my red scarf.

The flowers were dancing in the wind, and I smiled,

“What a lovely day!”

Then the wind lifted my scarf into a tall tree.

Just then, the little bird flew down.

日本語訳

次の日、わたしは赤いマフラーをつけて公園へ行きました。

花たちは風の中で踊るように揺れていて、わたしは微笑みました。

「なんてすてきな日なの！」

すると風がマフラーを高い木の上へ運んでしまいました。

ちょうどそのとき、あの小鳥が飛んできました。

③ The Little Bird's Gift 小さな小鳥のおくりもの

English : 54 words

The little bird pulled the scarf down with its beak
and dropped it gently into my hands.

I smiled and said,

“Thank you, my little friend.”

The bird sang softly,
as if it understood my words.

As I walked home in the golden evening light,
I learned that kindness comes back like an echo.

日本語訳

その小鳥はくちばしでマフラーを引っ張り、そっとわたしの手の中に落としてくれました。わたしはほほえんで、言いました。「ありがとう、小さなお友だち」

小鳥はやさしく鳴きました。まるで、わたしの言葉がわかったようでした。

夕日の金色の光の中を歩いて帰りながら、わたしは、やさしさはこだまのように返ってくるのだと知りました。

① The Paper Boat 紙の船

English : 88 words

Ren often looked at the river after school.

He wondered where the water went.

One day, he made a paper boat.

On it, he drew a star.

Ren set the boat in the stream.

It floated under a bridge and away from the town.

“Maybe it will reach someone,” Ren thought.

The next day, Ren found the boat near the river.

Someone had drawn a moon beside his star.

Ren’s eyes opened wide.

His boat had really reached someone.

The world felt a little bigger.

日本語訳

レンは放課後、よく川を見ていました。この水はどこへ行くのだろうと思っていました。

ある日、レンは紙の船を作りました。その船に星の絵を描きました。

レンはその船を川に浮かべました。

紙の船は橋の下を通り、町の外へ流れていきました。

「だれかのもとに届くかな」とレンは思いました。

次の日、レンは川の近くでその船を見つけました。

だれかが、レンの星のとなりに月を描いていました。

レンは目を大きくしました。

本当に、レンの船はだれかのもとに届いたのです。

世界が少し広がったように感じました。

② **Emi's White Shoes** エミの白いくつ

English : 93 words

Emi had new white shoes.

She wanted to keep them clean.

One day, Emi wore the shoes and went to the park with her friends.

There were many puddles after the rain.

“Let's jump!” said her friends.

Emi looked at her shoes.

“No. They will get dirty.”

Then a little child fell into a puddle.

Emi ran to help.

Her shoes became brown and wet.

But the child stopped crying and smiled.

“That was cool, Emi!” said her friends.

Emi looked at her shoes and smiled.

“They got dirty, but they helped someone today.”

日本語訳

エミは新しい白いくつを持っていました。

エミは、そのくつをきれいなままにしておきたいと思っていました。

ある日、エミはそのくつを履いて友だちと公園へ行きました。

雨のあとで、水たまりがたくさんありました。

「ジャンプしよう！」と友だちが言いました。

エミは自分のくつを見ました。

「いやだ。よごれちゃう」

そのとき、小さな子が水たまりでころびました。

エミは走って助けに行きました。

エミのくつは茶色くぬれてしまいました。

でも、その子は泣きやんで、にっこりしました。

「やるじゃん、エミ！」と友だちが言いました。

エミは自分のくつを見て、笑いました。

「よごれちゃったけど、このくつは今日、だれかを助けたんだ」

① **The Map of Sounds** **音の地図** *English : 129 words*

Yui liked listening to sounds. On her way to school, she heard many things: the river, the bakery bell, the train, and children laughing.

One day, her teacher said, “Please draw a map of your town.”

Everyone drew roads, houses, and shops.

But Yui drew something different.

She drew a blue line for the river sound.

She drew a yellow circle for the bakery bell.

She drew small stars where she heard laughter.

Her friend looked at the map and said, “I want to try this map.”

After school, they walked together.

At the blue line, they stopped and listened to the river.

At the yellow circle, the bakery bell rang.

Then her friend pointed to the park.

“I hear laughter. Can I draw a star here?”

Yui nodded. Her map became a map for two.

日本語訳

ユイは音を聞くのが好きでした。学校へ行く途中、ユイはいろいろな音を聞きました。

川の音、パン屋のベル、電車の音、子どもたちの笑い声。

ある日、先生が言いました。「自分の町の地図を描いてください」

みんなは道や家やお店を描きました。でも、ユイは少しちがうものを描きました。

川の音を青い線で描きました。パン屋のベルを黄色い丸で描きました。

笑い声が聞こえた場所には、小さな星を描きました。友だちはその地図を見て言いました。

「この地図、ぼくも歩いてみたい」放課後、二人はいっしょに歩きました。

青い線の場所で、二人は立ち止まり、川の音を聞きました。

黄色い丸の場所では、パン屋のベルが鳴りました。そのとき、友だちが公園を指さしました。

「笑い声が聞こえる。ここに星を描いてもいい？」ユイはうなずきました。

ユイの地図は、二人の地図になりました。

② **The Star Cookies** **星のクッキー** *English : 132 words*

Sota liked neat and beautiful things. His notebooks were clean.

His pencils were straight. He wanted to do things perfectly.

One day, Sota baked star cookies for his class party.

He looked at a picture in his recipe book.

The cookies had five sharp points. “They must look just like this,” Sota thought. He mixed butter, sugar, and flour.

Then he used a star-shaped cutter. But the dough was too soft. Some stars became round.

Some lost their points. He felt disappointed.

“I wanted perfect stars,” he said. But his younger brother was happy to see them. “They look like shooting stars!”

Sota thought for a moment. Then he added yellow icing.

At the party, his friends smiled.

“Wow! Shooting star cookies!” Sota was happy too.

“Perfect is not always best,” he thought.

日本語訳

ソウタは、きちんとしていて美しいものが好きでした。

ノートはいつもきれいでした。えんぴつはまっすぐに並んでいました。

ソウタは、何でも完璧にやりたいと思っていました。

ある日、ソウタはクラスのパーティーのために、星のクッキーを焼きました。

ソウタはレシピの本の写真を見ました。

そこにあるクッキーには、五つのとがった角がありました。

「これと同じ形にしくちゃ」とソウタは思いました。

ソウタはバター、砂糖、小麦粉を混ぜました。

それから、星の形の型を使いました。でも、生地がやわらかすぎました。

いくつかの星は丸くなりました。いくつかは角がなくなってしまいました。

ソウタはがっかりしました。「完璧な星を作りたかったのに」と言いました。

でも、弟はそれを見て喜びました。「流れ星みたい！」

ソウタは少し考えました。それから、黄色いアイシングをつけました。

パーティーで、友だちは笑顔になりました。「わあ！ 流れ星のクッキーだ！」

ソウタも嬉しくなりました。

「完璧がいつも一番とはかぎらないんだ」とソウタは思いました。